

# 体罰によらない子育てプログラム『ポジティブ・ディシプリン』の実施事業 認定ファシリテーター養成へ向けた実地研修、およびアンケート結果のご報告

報告期間 2022年4月1日～2023年3月31日  
文責：NPO 法人きづく ポジティブ・ディシプリン日本事務局

本報告では、当団体が、プログラム・ファシリテーター養成を目的として実施した標準プログラムと事務局認証版の実地研修等にかかる受託業務に関する報告をする。各実地研修へはポジティブ・ディシプリン日本事務局に所属するカンントリー・トレーナーが、研修生の資格取得のために必要な養成活動を担った。2022年度の受託業務内では、2022年4月～2023年3月までに、延べ研修生の8人（標準プログラム6人、事務局認証版2人）が実地研修へ臨んだ。

2022年度は、前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながらの事業実施となった。

## 1. 標準プログラム/実地研修

年	月日	場所	被養成者数	プログラム参加者数
2022	5-7月	愛知県名古屋市内	養成継続3人	10人
2023	1-3月	愛知県名古屋市内	養成継続3人	12人

標準プログラムの実地研修は、プログラムファシリテーターになるための養成研修（5日間）を修了した研修生を対象に実施した。実地研修の対象者は、トレーナーの伴走のもとで標準プログラム(18時間)を実施し、養育者の行動変容を促すことのできるファシリテーターとして資格取得を目指した。各標準プログラムの様子は、以下の通りである。なお、いずれの実地研修も新型コロナウイルス感染症対策のため、定数を16名から減員して募集を行った。プログラム開催時には、感染症対策に留意した。

### 【プログラムの様子】

2022年度は当初の年次計画に加え、年度途中の計画変更から、愛知県名古屋市内で実地研修を2回実施する業務を受託させていただいた。

#### 5-7月期：

本実地研修は、5月14日から7月30日まで、桜花学園高等学校学習センター内で行われた。参加者の登録数は10人で、養育者の育てる子どもの年齢は0歳が最も多く、最年長は14歳だった。今回は、土曜日開催であったため、事前会議を水曜日午前に行い、ふりかえりは毎回プログラム終了後にチームとトレーナーで行なった。現地にトレーナーが入る回と、オンラインで東京からサポートする回を通じ、全9セッションを無事に完了した。初回は消極的だった参加者が、最終回には活発に意見を出し合い、「一人で考えたらあんなに出ない」「みんなで考えて多様な意見があることがよかった」などの声が聞かれ他のが特に印象できであった。

#### 1-3月期：

本実地研修は、2023年1月16日から3月20日まで、5月と同会場で行われた。参加者の登録数は12人で、養育者の育てる子どもの年齢は乳幼児から小学生までだった。今回は、月曜開催であったため、事前会議を金曜午前

に行い、ふりかえりは毎回プログラム終了後にチームとトレーナーで行なった。初回と最終回にトレーナーが参加する計画であったが、最終回はトレーナーの体調不良により同席を断念させていただいた。オンラインによるサポートに切り替え、最終回まで実地研修として行った。最終回までに 12 人の参加者は、毎週通うなかでプログラムの場が安心して話せる安全な場であると捉えて、自己開示をしながらも、多くの気づきを得ることができたと語った。

両実地研修とも、ファシリテーターチームの高いコミットメントにより、参加者の安心・安全感を守りながら、標準プログラムのマニュアルに則ったプログラム実施となった。2 回目以降の実地研修ではまた異なる参加者のみなさんと、新しい経験を通じた学びを深めてもらえるよう尽力したい。

## 2. 事務局認証版/実地研修

ポジティブ・ディシプリンのプログラム普及活動においては、18 時間にわたる標準プログラムの導入を目的として、事務局認証版が規定されている。事務局認証版には養育者を対象とした 2 時間版と支援者を対象とした 2.5 時間版がある。本受託業務では、2022 年 9 月に養育者を対象とした事務局認証版（2 時間@東京都立川市）のファシリテーター 1 人ならびに 2023 年 1 月に支援者を対象とした事務局認証版（2.5 時間@山梨県甲府市）のファシリテーター 1 人の養成における実地研修を行った。養成は標準プログラムの有資格者である認定プログラム・ファシリテーター 2 人を対象に実施した。

〈立川市〉今回は、本市で初開催のポジティブ・ディシプリン事務局認証版であった。主催団体・関係者の関心も高く、また養育者の積極的な参加があった。ファシリテーターが 2 時間で 18 時間の内容を効率的に伝えながら、終始和やかな雰囲気で行われた。本実地研修により、2 時間版の資格取得に至った（1 人）。いずれ本市での標準プログラム開催が期待されている。

〈甲府市〉今回は、本市で初開催のポジティブ・ディシプリン事務局認証版であった。翌週から、標準プログラムの開催を控えた主催団体の職員が参加した。ファシリテーターは、具体例を交えながら 18 時間にわたるプログラムの要点を抑え、ポジティブ・ディシプリンの概要を伝えた。参加者が、標準プログラムの対象者とは異なる保育士や児童養護施設職員であったことから、支援者を対象として行方際の留意事項について確認をすることができた。本実地研修により、2.5 時間版の資格取得に至った（1 人）。

## 3. 標準プログラム効果測定

本受託業務では、2022 年 4 月～2022 年 12 月までに実施した標準プログラムについて、国際標準とされている効果測定が行われた。プログラム毎の分析結果は、非公表とすることが義務付けられているため結果の詳細については、日本財団への提出までとさせていただきます。

（プログラム毎の分析は、別添 1～3 を参照）

年	月日	場所	分析対象者数	分析結果
2022	05-07 月	愛知県名古屋市	8 人	添付 1
2022	09-11 月	東京都港区	8 人	添付 2
2022	10-12 月	愛知県名古屋市	10 人	添付 3

2023 年 1 月以降に実施したプログラムは、報告書提出時現在、カナダの開発者へ分析依頼中のため含まない

#### 4. 事務局認証版のアンケート結果

前述の2種類の事務局認証版は、いずれも日本独自で展開されているものであることから、取り組みの妥当性と効果検証のため、アンケート実施が義務付けられている。以下、2022年度に実施された2時間版4回、2.5時間版が3回の事務局認証版の事後アンケートの集計結果について、事務局より以下の通り、ご報告する。

##### ■ 事務局認証2時間版アンケート集計結果

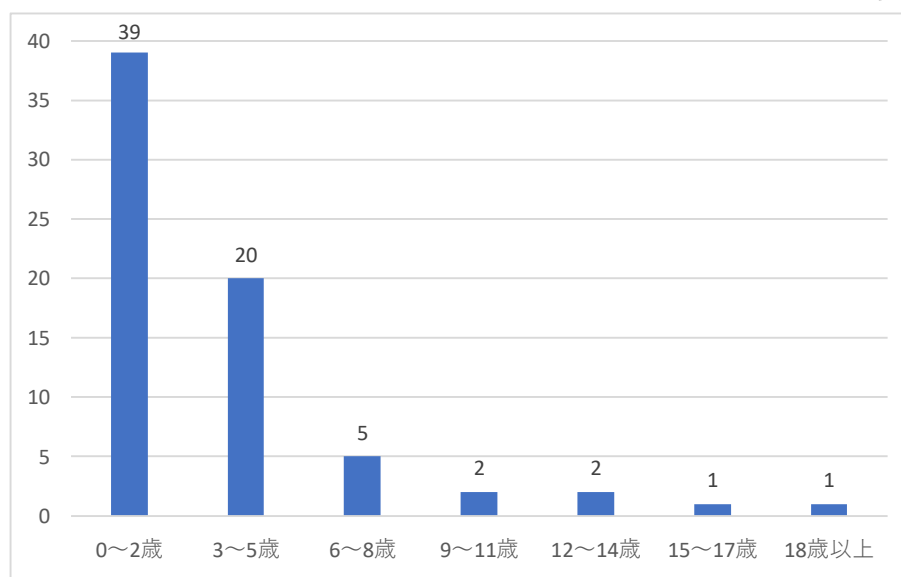
2時間版は、以下を基本として実施される（事務局発行のガイドラインより）。質問票は、別添4を参照。

- 目的： ポジティブ・ディシプリン標準プログラムの導入を視野に入れた自治体や地域社会において、プログラムの概要を養育者へ共有することで、標準プログラムへの関心を高める（標準プログラムが目指す養育者の行動変容を目的としないことに留意）
- 内容： ポジティブ・ディシプリン日本事務局により定められたプログラム案に基づく
- 教材： ポジティブ・ディシプリン日本事務局の指定する2時間版PPTスライド/配布資料/アンケート
- 対象： 0歳から18歳までの子どもを育てている養育者
- 時間： 120分
- 定員： 最少16名～最大24名（グループワークの機能を担保するため）
- 実施者： 2時間版の実地研修を終えた認定プログラムファシリテーター、またはカントリートレーナー

開催年月	開催地	アンケート回収数
2022年6月	東京都江東区	6
2022年9月	東京都立川市	15
2022年9月	愛知県名古屋市	13
2023年3月	東京都江東区	8

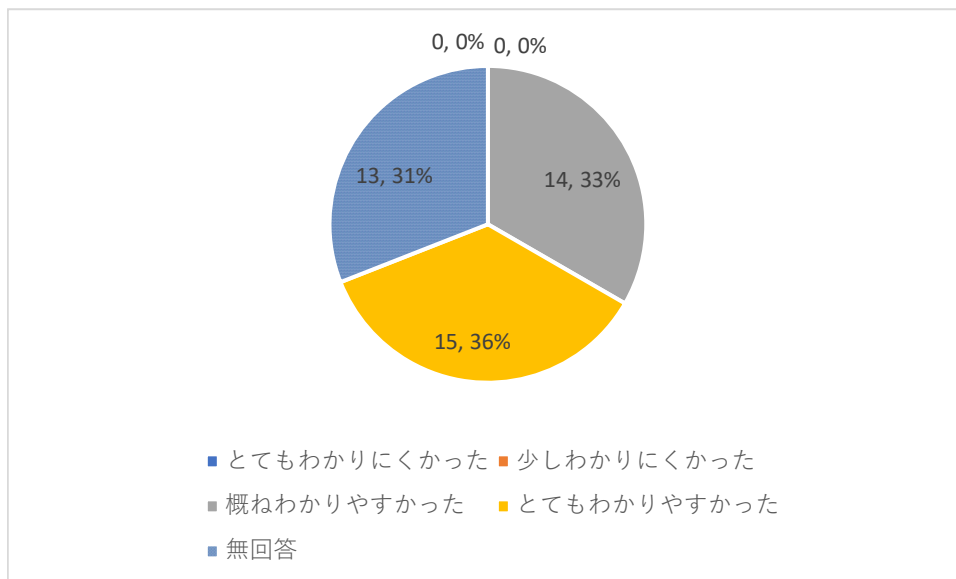
##### ● 回答者の子どもの年齢層（n=42）

回答者の子どもの年齢とその人数は以下の通りである。今回の多く参加者は、乳幼児を持つ養育者であった。



設問 1 :

- ① 「ポジティブ・ディシプリン」の内容について理解できましたか？←  
 (とてもわかりやすかった・概ねわかりやすかった・少しわかりにくかった・とてもわかりにくかった)



(単位：##人,##%)

2 時間版を担当するプログラム・ファシリテーターは、本来 18 時間かけて行う標準プログラムの内容を 9 分の 1 の時間で伝える。その中でも、「とてもわかりやすかった」「概ねわかりやすかった」の回答が 69%(n=29)を占めた。

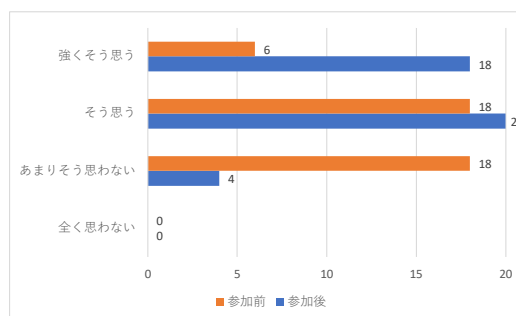
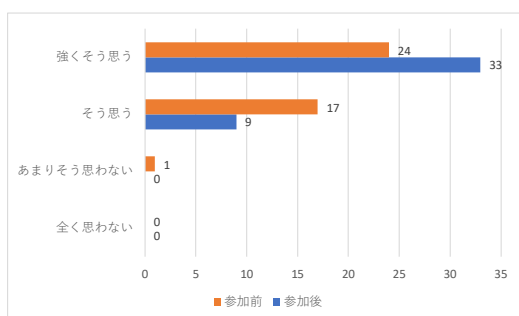
● 設問 2 :

- ② 以下の 2 つの設問について、プログラム参加前・参加後のあなたの考えに○をつけてください。←

2) -1 参加前のお考えについてお聞きします。←				
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←
2) -2 参加後のお考えについてお聞きします。←				
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←

<参加前後の比較> (単位：人)

叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う    叩かない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う



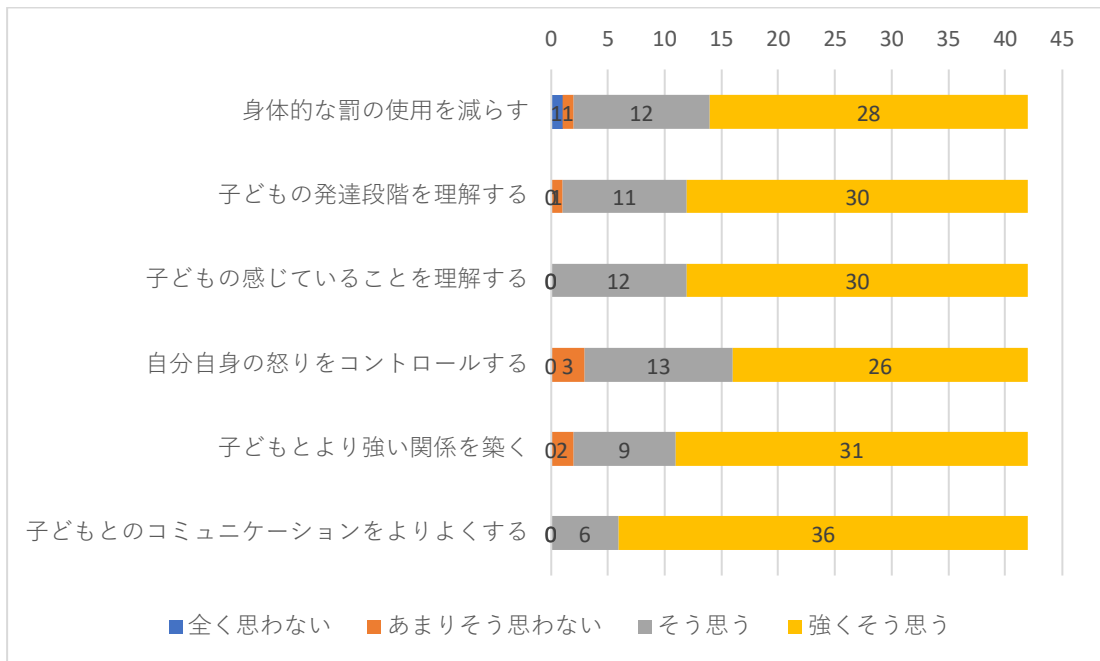
設問 2 では、事務局認証 2 時間版の参加前と参加後を比較した。「叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う」、「たたかない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う」の 2 問について、いずれも「強くそう思う」と「そう思う」が、参加後に回答数が増加した。また「可能だと思う」については、参加前には、18 人が「あまりそう思わない」と回答していたが、参加後には 4 人となり減少した。この結果から、（母数が少ないため一般化は難しいことを前提としながら）行動変容を目的とすることは叶わないとしても、2 時間版も参加者の意識に働きかけられる可能性を示唆していると考えられる。

● 設問 3 :

③ 「ポジティブ・ディシプリン」を学ぶことで、子育てに関する以下のことでご自身に役立ちましたか？

あてはまる数字に○をしてください。 1=強くそう思う、2=そう思う、3=あまりそう思わない、4=全く思わない

- 身体的な罰の使用を減らす ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )
- 子どもの発達段階を理解する ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )
- 子どもの感じていることを理解する ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )
- 自分自身の怒りをコントロールする ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )
- 子どもとより強い関係を築く ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )
- 子どもとのコミュニケーションをよりよくする ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )



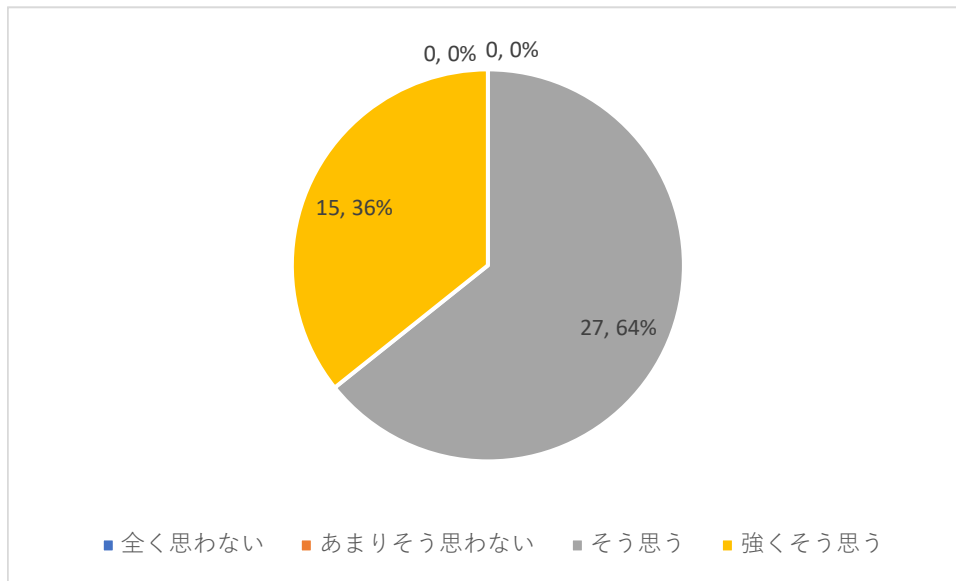
(単位：人)

設問 3 は、標準プログラムの効果測定と同一の設問としている。今回の着目点は「子どもの発達段階を理解する」が 42 人のうち 11 人が「そう思う」、1 人が「あまりそう思わない」と回答していることである。標準プログラムでは、9 回のうち 4 回（合計 8 時間）をかけ 0～18 歳の発達を扱うが 2 時間版では 30 分程度の時間を費やすのみであるため、これについては参加者から率直な回答が得られたものと捉えられる。一方で、「子どもとのコミュニケーションをよりよくする」という問いに対して「強くそう思う」が 36 人だった。今後、回答数が大きい分析を行う中で、2 時間版の効果と限界について検証することが期待される。

● 設問 4 :

今後、「ポジティブ・ディシプリン」について、より詳しく学ぶ機会があれば参加したいと思いますか？  
( 強くそう思う ・ そう思う ・ あまりそう思わない ・ 全く思わない )

設問 4 は、事務局認証版の目的達成度を測るものである。今回の回答は、「強くそう思う」が 36%(n=15), 「そう思う」が 64% (n=27)だった。よって、2 時間版に参加した参加者が、標準プログラムの参加に対する関心を持っていることがわかった。



(単位：##人,##%)

● 自由記述欄

アンケートは最後に自由記述欄を設けている。具体的な記述内容（記述の全文）は以下の通りである。

- ◆子どもも立派な一人の人間。自分の気質・子どもの気質や発達段階などよく考えてストレスにならないようにすることも大切。
- ◆とてもためになりました。ありがとうございました。
- ◆とてもためになった。温かさや枠組みの所で温かさがないとだめだと言われてとても共感できた。
- ◆参加できて良かったです。中々難しいと思いますが実行できるように頑張りたいなと思いました。わかってはいるけどということのを新たためて実感できました。
- ◆本日はお忙しいところありがとうございます。「長期的な目標」の大切を改めて学ぶことができました。
- ◆そもそも私が変わらないとならない。必要なことなのにこんなに広まっていないことが不思議。
- ◆18 時間、みっちり学べば、きっと、理解がさらに深まるのだらうと思う。
- ◆2 時間あっという間でした。2 時間のエッセンスだけでも意識が変わって、目線も変わりました。ありがとうございました。
- ◆課題があった時に、どう考え対応したら良いかがわかった。気質の違いは新しい視点だった。なぜイライラしてしまうのか少しわかってよかった。

- ◆子育てのヒントをたくさんいただきました。この機会を得て、リフレッシュした気持ちで子どもとすごしたいと思います。
- ◆短ったため、分からないことも多かったですが、家で読み返してみたいです。長期的な目標をたてるということと温かさや枠組みを示すという意識で行いたいと思いました。
- ◆基本的な考え方がわかりました。ありがとうございました。
- ◆子どもへの声かけが難しいなと感じる時が多く、参加させていただきました。自分なりに子の行動と自分の声かけを記録し、ふり返ったり、保育園の先生に相談したりしていました。今日は受けてやり方がよくわかって、子どもに対応できそうな気がします。これを機に変わりたい。変えたいです。
- ◆子どもに限らず、一人一人の気質に合った言葉をかけること、行動していくことを実践していきたいと思いました。自分と子どもの気質って、それぞれ違うということを良き個性と受けとめて、共有していく大切さを改めて考えました。
- ◆子の気質の理解は大切なことだと気づけてよかった。
- ◆質疑応答の時間があると嬉しいです。
- ◆お忙しいなか、ありがとうございました。本も出ているようですので、読んでもっと理解を深めようと思います。
- ◆2時間の体験版ではありましたが、グループワークもあり他の方の意見を聞いて貴重な経験になりました。
- ◆参加できてよかったです。こんな風に考えたら、楽に子どもができることを知ることができました。ありがとうございました。
- ◆夫婦で協力して実施できるプログラムがあれば知りたいです。
- ◆なかなか、他のお母さんといっしょに話す機会がなく、自分の子育てに不安がありました。このようなプログラムはとて嬉しいです。
- ◆全く知らない状態で参加したので、概要が知れてよかったです。テンポよく進めてくださり、ありがとうございました。もっと知りたくなりました。
- ◆また2時間のプログラムをやってほしい。
- ◆本日はありがとうございました。
- ◆子どもの年齢ごとにグループを分けて課題に取り組んでみたかった。
- ◆「枠組み」について考える良い機会となりました。

※ 本集計は、添付の現行アンケートに沿って行った。今回、一部のアンケート回収時に「設問 5」の回答が得られていなかったため「設問 5」の集計は含まれていない。

■ 事務局認証 2.5 時間版アンケート集計結果

2.5 時間版は、以下を基本として実施される（事務局発行のガイドラインより）。質問票は、別添 5 を参照。

- 目的： ポジティブ・ディシプリン標準プログラムの導入を視野に入れた自治体や地域社会において、プログラムの概要を支援者へ共有することで、標準プログラムへの関心を高める（標準プログラムが目指す養育者の行動変容を目的としないことに留意）。また、プログラムの背景や標準プログラムの実施方法などを伝える。
- 内容： 日本事務局により定められた標準化されたプログラム案に基づく
- 教材： 日本事務局の指定する 2.5 時間版 PPT スライド、配布資料、アンケート
- 対象： 0 歳から 18 歳までの子どもを育てている養育者の支援者、行政担当者、議員など
- 時間： 150 分
- 定員： 最少 16 名～最大 24 名(グループワークの機能を担保するため)
- 実施者： 2.5 時間版の実地研修を終えた認定プログラムファシリテーター、またはカントリートレーナー

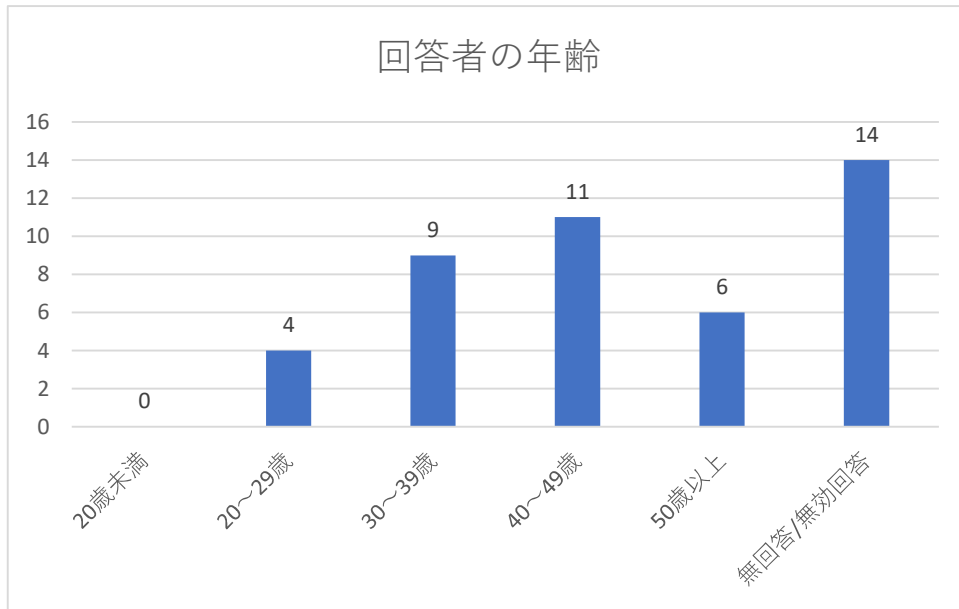
開催年月	開催地	アンケート回収数
2022 年 6 月	香川県小豆島	13
2022 年 7 月	香川県善通寺市	14
2023 年 1 月	山梨県甲府市	17

(回答者の性別：女性 71% 男性 20% 無回答 9%)

まず、回答者(n=44)の属性を以下に示す。

● 回答者の年齢層

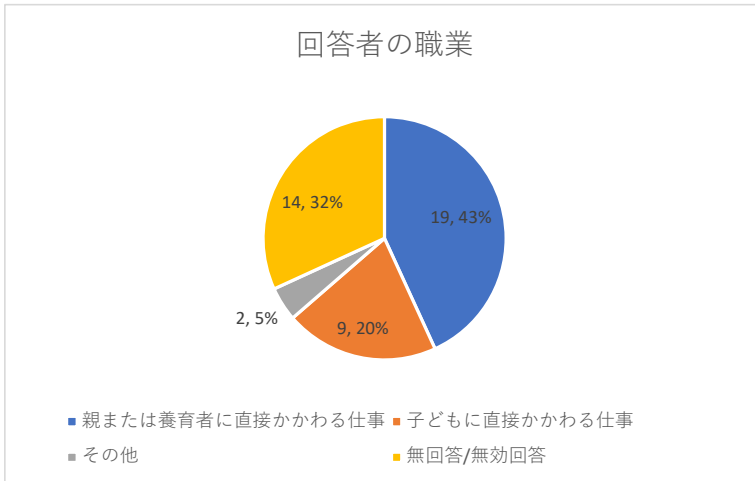
回答者の年齢とその人数は上記の通りであった。2.5 時間版は支援者を対象として開催されるが、今回は 40 歳以上が過半数を占めていた。



(単位：人)



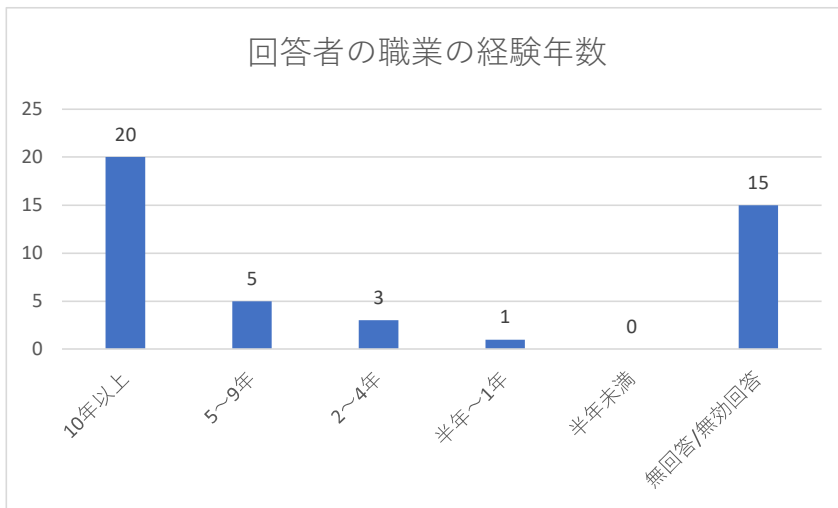
- 回答者の職業



支援者である参加者に、その対象者を尋ねた。今回は支援者の中でも「親や養育者に直接関わる仕事」をしている方が 43%、「子どもに直接関わる仕事」をしている方が 20%だった。ポジティブ・ディシプリンは養育者を対象とするプログラムであるため、養育者を直接対象とする業務従事者の参加は、支援者版の目的にも適っていることが判明した。

(単位：##人,##%)

- 回答者の職業における経験年数

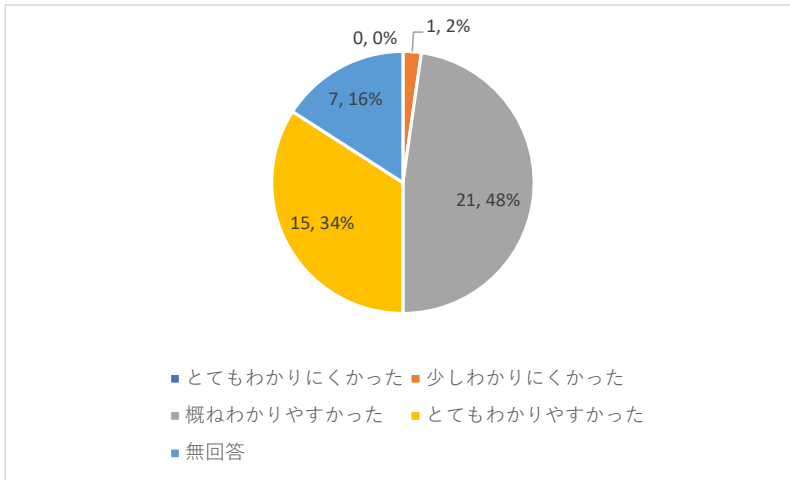


次に、回答者の職業における経験年数について聞いた。現在の仕事に就いて 10 年以上の方が 20 人、10 年未満の方が 9 人という回答だった。無回答が 15 人いたが、回答者の中では、10 年以上が半数以上を占めており、経験年数の高い支援者が多く参加されていたと言える。

(単位：人)

● 設問 1 :

- ① 「ポジティブ・ディシプリン」の内容について理解できましたか？  
 (とてもわかりやすかった・概ねわかりやすかった・少しわかりにくかった・とてもわかりにくかった)



2.5 時間版では、支援者にプログラムの概要を共有することを目的としている。本来、時間をかけて進めるワークを駆け足で体験する内容となっているが、「とてもわかりやすかった」が 34% (n=15), 「概ねわかりやすかった」が 48%(n=21) を占めた。参加された支援者のみなさんが、本来の標準プログラムで養育者が体験する 18 時間に仕込まれた全容を理解するまで至らずとも、ポジティブ・ディシプリンがどのように養育者へ働きかけるかの概要が伝わっているのではないかと推察できる。

(単位：##人,##%)

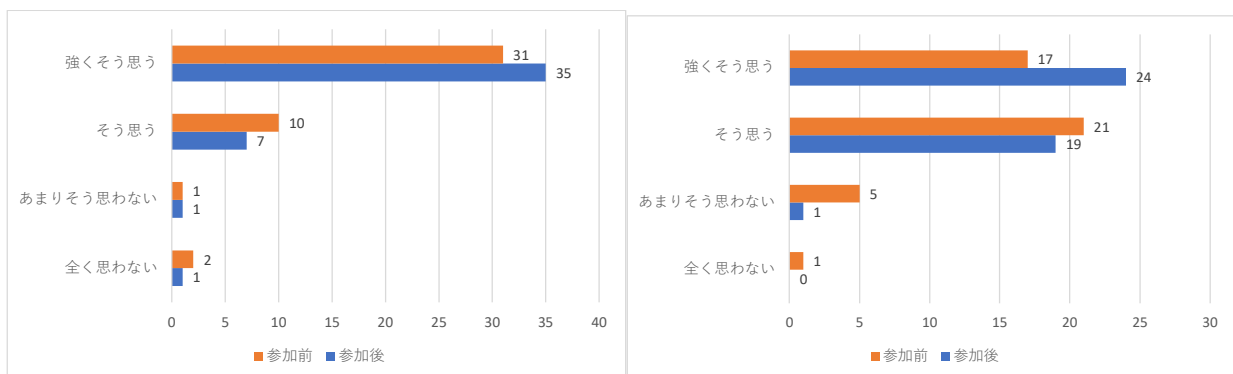
● 設問 2 :

- ② 以下の 2 つの設問について、プログラム参加前・参加後のあなたの考えに○をつけてください。

2) -1 参加前のお考えについてお聞きます。				
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う	強く そう思う	そう思う	あまり そう思わない	全く 思わない
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う	強く そう思う	そう思う	あまり そう思わない	全く 思わない
2) -2 参加後のお考えについてお聞きます。				
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う	強く そう思う	そう思う	あまり そう思わない	全く 思わない
叩かない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う	強く そう思う	そう思う	あまり そう思わない	全く 思わない

<参加前後の比較>

叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う    叩かない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う



(単位：人)

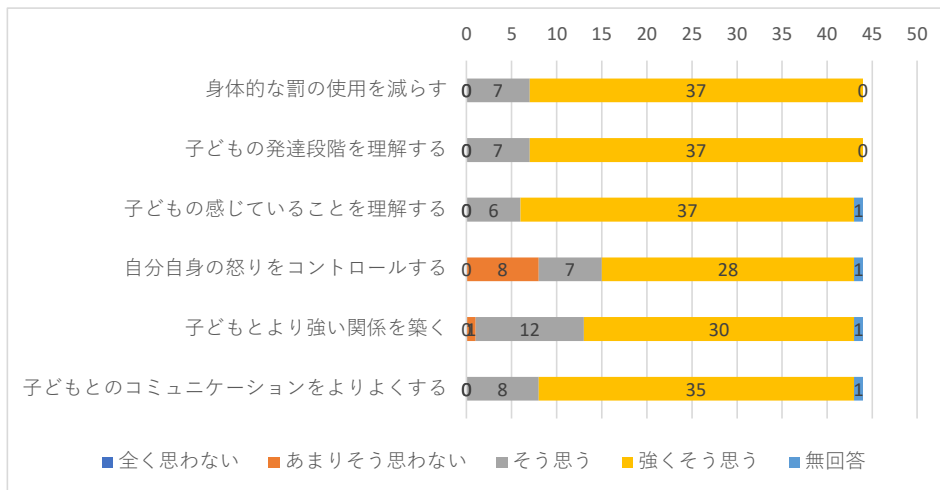
設問 2 では、事務局認証 2.5 時間版の参加前と参加後を比較した。「叩かない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う」、「叩かない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う」の 2 問について、いずれも「強くそう思う」と

「そう思う」が、参加後に回答数が増加した。ただ、参加前から「強くそう思う」「そう思う」との回答が過半数を占めていたことにも着目したい。参加後も「全く思わない」と回答した参加者が1人いた。この理由について、本分析では探ることができないが、2.5時間版を実施するファシリテーターは、対象が支援者であるから体罰禁止の法改正に基づく社会的な総意の立場にあることを前提としない視点を持つことが大切であることが示唆された。

● 設問3：

③ 「ポジティブ・ディシプリン」を学ぶことで、子育てに関する以下のことでご自身に役立ちましたか？  
あてはまる数字に○をしてください。 1=強くそう思う、 2=そう思う、 3=あまりそう思わない、 4=全く思わない

身体的な罰の使用を減らす	( 1 . 2 . 3 . 4 )
子どもの発達段階を理解する	( 1 . 2 . 3 . 4 )
子どもの感じていることを理解する	( 1 . 2 . 3 . 4 )
自分自身の怒りをコントロールする	( 1 . 2 . 3 . 4 )
子どもとより強い関係を築く	( 1 . 2 . 3 . 4 )
子どもとのコミュニケーションをよりよくする	( 1 . 2 . 3 . 4 )

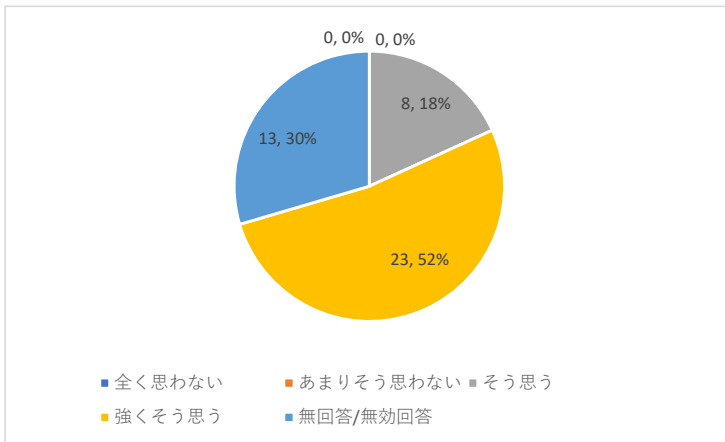


(単位：人)

設問3は、標準プログラムの効果測定と同一の設問としている。過半数の参加者が6項目のうち全項目において、ポジティブ・ディシプリンを学ぶことが役に立ったかとの問いに対して「強くそう思う」と回答した。一方で、「自分自身の怒りをコントロールする」では、「あまりそう思わない」と回答した参加者が7人いた。事務局認証版では時間の制約により、標準プログラムでは触れる「ストレス反応」に関する内容を扱うことができないことが、この回答を読み取る鍵であることは推察できる。

● 設問 4 :

- ④ 叩かない・怒鳴らない子育てを広げるため、養育者を支援するプログラムが有効だと思いますか？  
 (強くそう思う・そう思う・あまりそう思わない・全く思わない)

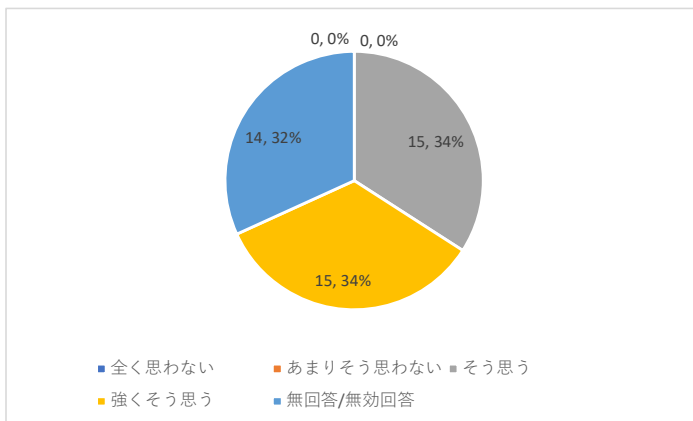


設問 4 は、「叩かない・怒鳴らない子育てを広げるために養育者を支援するプログラムが有効だと思うか」という設問に対して、52%(n=23)が「強くそう思う」、18% (n=8)が「そう思う」と回答した。無回答が30%を占めているが、回答した全参加者が養育者支援の有効性について同意をしていることがわかる。

(単位：##人, ##%)

● 設問 5

- ⑤ 叩かない・怒鳴らない「ポジティブな子育て」を広げるため、「ポジティブ・ディシプリン」の標準プログラム(全 18 時間)を導入したいですか？  
 (強くそう思う・そう思う・あまりそう思わない・全く思わない)



設問 5 は、支援者に対し「ポジティブ・ディシプリン」の標準プログラムの導入に関する関心を尋ねた。回答者 (n=44) のうち、34%が「そう思う」と回答し、同じく34%が「強くそう思う」と回答した。無回答が32%を占めているが、回答した全参加者が導入に対する関心を寄せていることがわかった。

(単位：##人, ##%)

● 設問 6

- ⑥ ご自身の地域で「ポジティブ・ディシプリン」の標準プログラム(全 18 時間)を導入するとしたら、どのような調整や準備が必要になりますか？また、課題となり得ることがあれば教えてください。

次に、標準プログラムの導入に関する調整や準備について尋ねた。具体的な記述(回答より全文記載)は以下の通りである。

- ◆子どもを預けられる人。
- ◆行政の協力。
- ◆導入にあたり同じ考えを持つ仲間を増やし計画的に実施する。
- ◆本日のような1日コースが参加しやすいです。
- ◆勤務上毎回同じメンバーがそろわないため、プログラムの進行にばらつきがでる。

- ◆全 18 時間という時間をとることが仕事をしながらだと難しい気がする。
- ◆特殊な勤務状況なので、プログラムを受講する日程調整が職場で必要。(特に職場全体でプログラムに臨むとなると日程調整が難しい) ただ、プログラム自体は全職員がうけるべきである。
- ◆必要性をどう伝えるか、どのように広報するか。
- ◆熱 感の違い。
- ◆導入の窓口となる人 (団体) が必要である。
- ◆同じ参加者が 9 日間継続して参加すること。費用面。託児者の確保。
- ◆費用面をどこがどう負担するか、あとは広報をどうするか。
- ◆本当に必要としている人に伝わりやすい方法を考える。
- ◆市町村によって子育て支援への取り組み度が大きく違うというところで、まず PDC について適切に理解してもらう取り組みが重要になると思います。
- ◆時間的な課題。
- ◆財源、発生予防…リスクの高い保護者が「体罰によらない…」という名称に反応してしまわないか心配。
- ◆時間。
- ◆ファシリテーターの養成研修の回数や費用。

参加した支援者からは現実的な課題が具体的に挙げられた。これらの結果を受け止め、今後の標準プログラム導入へ向けた企画・立案が期待される。

- 自由記述欄

アンケートは最後に自由記述欄を設けている。参加者から、有意義な時間となったことや参加者自身の子育ての振り返りとなったこと、課題点などについてあげられ、記述の詳細 (回答より全文記載) は以下の通りである。

- ◆日々、怒ってしまいがちですが、今回のプログラムを受けて、長期の目標 (育てほしい姿) を思い浮かべて、もっと穏やかに、子育てしていけそうな気がします。
- ◆親目線で、子どもにどう接するか、ポジティブな声かけを学べた。充実した 2 時間でした。早速試していきたいです。ありがとうございました。
- ◆とても貴重なお話をありがとうございました。
- ◆長期的目標のための温かさ、枠組みという考え方はすごく勉強になった。自分の子育てや仕事にもいかしたいと思う。
- ◆子どもの育て方で理由や意味を考えるととても良い機会になりました。
- ◆これから出産予定の子へ対する育て方、プランのイメージがわかりました。
- ◆ポジティブ・ディシプリンについて、想像と違っており、とても勉強になった。「温かさ」と「枠組み」を常に考えながら、仕事、生活をしていきたい。
- ◆反射的に怒っていたので改めます。アンガーマネージメントも学べたらいい枠組みの部分が難しい。
- ◆短い時間でのお話だったので十分な理解は得られませんでした。ポジティブ・ディシプリンを心に留めていきたいです。ありがとうございました。

- ◆養育者の怒りのコントロールについて話があれば更に良いと思います。
- ◆体験版を経験された方はもっと学びたいと感じたと思います。
- ◆ポジティブ・ディシプリンは、とても有効的なものだと思うが、いざ、周りに広めようとする、「集団生活の中で叱らない枠組みが難しい」「集団の中で個々が自分を見て欲しい、と訴えてくるなかで、それぞれに関わるのが難しい」と言われることがあると思うのですが、こういった考えの大人に対して、ポジティブ・ディシプリンの有効性を実践しようと思えるような説明の仕方、伝え方などがあれば知りたいです。
- ◆市町村とタイアップし、親になるすべての人が受けられるような体制ができてくると良いと思いました。トレーナーがおっしゃっていたように里親や子ども福祉に携わる人たちに向けても、受講できるようにしていただきたいと思います。
- ◆里親さんにも是非受けてもらいたい。
- ◆母親学級、父親学級、両親学級と同じ位置づけで多くの方が受講できるといい。
- ◆来週から楽しみです。よろしくお願いします。
- ◆日々の子育て、子どもとの日常を振り返る時間になるなと感じました。どうしても忙しく過ぎていくので、楽しみながら子育てに向き合える時間をいただけて感謝しています。
- ◆以前、ポジティブ・ディシプリンの無料の説明会？に参加しました。（ファシリテーター養成研修の前に受ける説明会）。そのときにも確認したのですが、再度確認したいのですが、ファシリにはなってませんが、本を参考に資料をつくり、親御さんと話したりしています。それは今後も続けてよいですか？

今回のアンケート結果は、事務局認証版がより効果的に、標準プログラムの導入へつなげていくことができるように、今後の活動へ活かしていくことが期待される。

## 5. 戦略ワークショップ（実施せず）

2022年度の当初計画では、宮崎県の関係者からのリクエストを受け、同県における戦略ワークショップの実施が受託業務に含まれていた。戦略ワークショップでは、新たな事業地開拓を目的として、現地の関係機関や支援者を対象としたワークショップの実施を計画していたが、先方より2022年度の同ワークショップの実施を見送りたい旨のご連絡を受け、年度途中に受託業務の内容が変更されることになった。

以上